

ハ 下位V女子  
 の堅さも見られなくなってきた。AETに  
 対する「Ghost story」の紹介、発表で  
 は、練習の成果が見られ、自分の担当し  
 た部分を明瞭かつ適当な声量で表現でき  
 た。

生徒S  
 ハ 下位V男子  
 事前の面接では一度で聞き取れず、2  
 回繰り返してもらったり、ヒントをもら  
 ったりしてから答えた質問が多く、答え  
 られなかったものもあった。事後では、  
 1回の質問で答えたことが多く、応答の  
 タイプとして、Long answerの答えが多  
 かった。授業中の観察では、初めは進ん  
 で話すことができず、声を出しているの  
 か分からない様子であったが、徐々に声  
 が聞き取れるようになり、異文化理解の  
 発表では、声をはっきり出して英語で発  
 表できた。

生徒Y  
 ハ 中位V女子  
 事前の面接では、質問されたことに對  
 して返答するのが精一杯の状態であった  
 が、事後の面接では、How long?に對し  
 て2 and a half hours. と答えたり自  
 分で修飾語を付け加えて表現したりする  
 ことができるようになった。授業では後  
 半の活動において、相手の目を見て会話  
 の練習を行ったり、表情豊かに表現した  
 りする場面がしばしば見られるようにな  
 り、コミュニケーション能力が総合的に  
 伸びつつあるのが分かる。

生徒D  
 ハ 中位V男子  
 事前の面接では、意欲のわりに応答で  
 きなかったものが多かった。事後では一  
 度で応答できなかったものは1問であり、  
 応答には必ず自分の工夫した表現、a  
 little tired, very difficult などを含ん  
 でいた。また、応答を考えているときに、  
 well を使用したり、面接している教師  
 が楽しくなるような様子であった。授業  
 全体を見ても話す内容や言葉を自分なり

に工夫しつつ、表情豊かに話すことがで  
 きるようになってきており、ジャッジ  
 グペーパーでのクラスメートからの評価  
 は大変高いものであった。

生徒O  
 ハ 上位V男子  
 事前事後ともオールAであり、基礎・  
 基本の定着が口頭でのコミュニケーション  
 能力に結び付いているのが感じられた。  
 事後の面接では、Long answer や Short  
 answer を自由に使い分けことができ、  
 教師に対してHow about you?と聞き返し  
 たり、You are welcome. と答えたり、自  
 然な受け答えが、比較的難易度の高い質  
 問に対してもできた。

生徒T  
 ハ 上位V女子  
 事前テストはオールAであり、Long  
 answer ですらすら答えるなど、優秀であ  
 った。さらに事後テストでも、基礎的な  
 知識の定着と応用が顕著であり、not  
 bad や about を適切な機会に使用できた。

(2) コミュニケーションへの関心・意欲・態度の  
 変容

コミュニケーションへの関心・意欲・態度がど  
 のように変わってきたのかを、観察、発表、アン  
 ケートへの記述、面接法、評価結果などから生徒  
 の変容を分析した。

面接法に表れたクラス全体の関心・意欲・態度

	A	B	C
事前面接	1 2	2 4	0
事後面接	3 4	4	0

(A B Cは、教師が評価した結果である。)